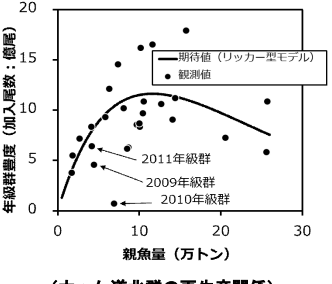
網走水試ミニレター

No.7 2012.10.11

～ホッケ道北群の資源回復に向けて～

9 月中旬から、管内の漁協・水産加工協や関係市町に水試の研究成果などを説明させて頂く「巡回訪問」を行っています。先々で真っ先に話題になるのは、やはりホタテやアキサケに関することですが、今年はホッケの漁獲制限についても話題となっています。マスコミにも報道されているとおり、最近ホッケ道北群の資源が急激に減少しており、道水産林務部が浜に漁獲の自主規制を呼びかけているためです。

ホッケ道北群は、オホーツクから宗谷を経て後志管内に至る広い海域に分布し、沖合底引き網をはじめ底建網、各種刺し網など様々な漁業に幅広く利用されています。2008 年には全道のホッケ水揚げ量の 9 割近くに当たる 14 万 7 千ｔが道北群でした。しかし、その後水揚げは 2009 年 9 万 6 千ｔ、2010 年 6 万 7 千ｔ、2011 年には 5 万 3 千ｔと急激に落ち込みました。原因については漁獲と環境の両面が考えられていますが、いずれにしても現在の漁獲圧を削減しないと資源の回復は難しいと判断されました。それは、これまでの調査研究から、この資源では親が多いほど子が多く得られるという親子の再生産関係が明らかになったからです(右図)。



（ホッケ道北群の再生産関係）

大臣許可から共同漁業権漁業まで、操業形態の異なる漁業者が広域的に協調して漁獲圧の削減に取り組むのは容易ではありません。しかし、科学的な知見に基づき、漁業者が自主的に広域資源の管理に取り組む意義は極めて大きいと言えます。2009 年 3 月に閣議決定された「規制改革推進のための 3 か年計画」にＴＡＣ設定魚種の拡大が検討事項として盛り込まれた際、ホッケが例示されていたことからも、取組の成否が今後の我が国水産資源管理のあり方議論に大きな影響を及ぼすことが考えられます。関係各位の英知でこの難題が克服されることを願っています。

（T）